

上毛町少年海外体験学習事業「バンコク友好の翼」



チュラロンコーン大学附属小学校の児童30名が上毛町を訪れました。

タイ・バンコクにあるチュラロンコーン大学附属小学校の5年生児童30名が、10月6日(日)から10月13日(日)の7泊8日で上毛町を訪れました。

滞在期間中、歓迎セレモニー、両国の交流を記念する記念植樹、町内4つの小学校との学校交流や日本の家庭生活を体験するホームステイ、ホームステイ受入世帯(ホストファミリー)児童との交流会など様々な体験・交流を行いました。

上毛町に到着した10月6日(日)は、上毛町立体育館(ループアリーナ)で歓迎セレモニー、大池公園で記念植樹を実施しました。歓迎セレモニー、記念植樹には8月にバンコクへ渡航研修を行った団員と今回の訪日事業でホストファミリーになった児童らが参加しました。記念植樹を終えた後は、大平楽にて交流会を行い、舞踊ショーの鑑賞と夕食会を通じて交流をしました。

10月7日(月)、10月8日(火)は学校交流を行いました。南吉富小学校では輪投げやけん玉などの昔遊び、西吉富小学校では生け花体験、唐原小学校ではポッチャというボールを使ったスポーツ体験と、高学年クラスで国語の授業を体験し、友枝小学校では書道体験を通して漢字を学びました。そして、南吉富小学校、唐原小学校では日本の給食も体験しました。学校交流中は両国の児童の笑顔があふれる大変充実した時間を過ごしました。

町はこの交流を通じて次世代を担う児童たちが、より広い視点に立った物の見方、考え方ができる国際感覚をもった青少年に育つことを期待しています。



上毛町教育委員会により

タイ伝統舞踊『ラムトーン』で繋がる友好の翼 チュラロンコーン大学附属小学校の歓迎セレモニーにて

CIR(国際交流員) プーンシリ・ナタオン

10月6日(日)から10月13日(日)の間、上毛町にチュラロンコーン大学附属小学校の児童30名が訪問し、10月6日(日)には上毛町立体育館(ループアリーナ)で歓迎セレモニーが盛大に行われました。セレモニーでは、児童がタイの伝統舞踊「ラムトーン」を披露し、参加者を魅了しました。タイの文化を身近に感じさせてくれる美しく素晴らしいもので、今回はこの「ラムトーン」についてご紹介します。



歓迎セレモニーに参加された皆さんがタイの伝統舞踊を鑑賞することで、文化の多様性や美しさを再認識できたのではないかと思います。今回のラムトーン披露がタイ文化への興味や理解につながり、上毛町とタイのチュラロンコーン大学附属小学校の絆がさらに深まり、今後も互いの文化を尊重し、交流を続けていくことを期待しています。

ラムトーンとは？

「ラムトーン」は、タイの伝統的なフォークダンスの一つで、タイ中部ロップリー県の人々にとっては伝統的なレクリエーションの一種でもあります。「ラム」という言葉は「踊り」、「トーン」は「太鼓」を指し、「太鼓のリズムに合わせて踊る」という意味になります。第二次世界大戦中には村人たちの娯楽として広く親しまれていました。リズムに合わせて軽快なステップを踏み、歌や音楽とともに楽しむこの踊りは、簡単な動きであることから、子どもから大人まで幅広く親しまれ、現在でも地域の祭りやお祝い事で披露されることが多いです。

ラムトーンの特徴

ラムトーンは、明るく軽やかなリズムが特徴で、踊り手たちは音楽に合わせてステップを踏みながら、優雅に手や腕を動かします。踊りの動作は比較的シンプルで、見る側にも楽しく、参加型の踊りとしても知られています。また、歌詞にはユーモラスな内容や日常の出来事が含まれることが多いです。

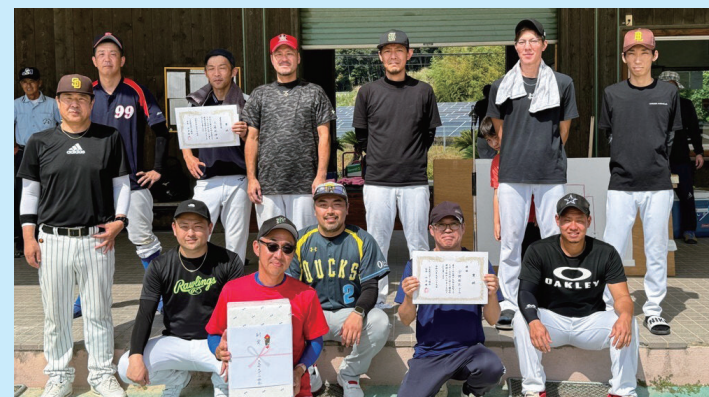
ラムトーンの衣装

この衣装は第二次世界大戦時代(1940年代)のタイを反映したスタイルで、伝統と西洋の文化が融合しています。男性は白いシャツにサスペンダー、ゆったりとしたパンツと帽子を合わせたシンプルな装いで、労働者の雰囲気を漂わせています。女性はピンクのスカートにオフショルダーのトップス、麦わら帽子を被り、可愛らしくも優雅な印象を与えてくれます。この衣装は、タイの文化と歴史を象徴し、踊りの魅力を引き立てています。

「第19回上毛町ソフトボール大会」開催！

9月29日(日)、大池公園多目的運動広場で「第19回上毛町ソフトボール大会」が開催されました。町内各地区から6チーム80名の参加があり、熱戦が繰り広げられました。成績は次のとおりです。

- 優勝 宇野西区
- 準優勝 東下ヤブレーズ
- 最優秀賞 火箱 光伸(宇野西区)
- 敢闘賞 渡辺 哲也(東下ヤブレーズ)



▲優勝 宇野西区



▲準優勝 東下ヤブレーズ